【91】河越氏館跡と常楽寺

国指定史跡河越館跡は、平安時代の終わりごろから南北朝時代の中ごろまでの約 200 年間、武蔵国で大きな勢力を誇った在地領主河越氏の居館跡です。常楽寺の開山、河越氏の衰退を経て、戦国時代には関東管領山内上杉氏が陣所を構えました。西に残る土塁は、小田原北条氏の重臣大道寺氏の砦として使われたころの遺構と考えられます。

常楽寺は河越山三芳野院と号し、嘉元 3 年（1305）に創建された時宗の寺院です。境内には河越重頼、その娘で源義経の正妻となった京姫と義経の供養塔があります。

【92】上戸日枝神社と桜

上戸・鯨井・的場の鎮守です。平安時代に京都東山の新日吉山王（さんのう）社を勧請（かんじょう）し、新日吉山王権現（ごんげん）と称しました。室町時代の銅造三尊懸仏が祀られていて、信仰を集めています。

普段は閑静な境内ですが、春は桜の名所として多くの人が訪れます。

【93】鈴木園

現在の狭山茶のルーツは「河越茶」と伝わります。河越館跡近くで茶園を営む「鈴木園」は、河越茶の流れを汲む在来種を栽培しています。かつてはこのあたりも河越館の敷地だったといいます。

明治 20 年（1887）頃に建てられた長屋門は木造２階建てで、当時は１階でお茶づくり、２階で養蚕を行っていたそうです。長屋門の前面には茶畑が広がり、地域のくらしと産業の歴史が反映されている貴重な景観です。

【88】安比奈親水公園

入間川左岸の河川敷を利用した広大な公園です。テニス・サッカー・野球などのスポーツも楽しめますが、広い芝生広場や入間川の水を利用した水路や池などの親水空間も魅力です。夏には隔年で小江戸川越花火大会が開催され、約６千発が打ち上げられます。

【78】川越水上公園と池辺公園

海なし県埼玉に水と親しめる総合公園として昭和 63 年（1988）に開設されました。プール、テニスやフットサルなどのスポーツはもちろん、ボートの楽しめる修景池、春の桜、新緑の光景、紅葉する秋のメタセコイアやイチョウと、四季折々の楽しみ方ができます。

池辺公園は入間川右岸の樹林地内に遊歩道、ベンチなどが整えられ、自然に親しめる公園です。9 月には、園内のいたるところで曼珠沙華（彼岸花）が咲き乱れます。

入間川

河越館のあった上戸・鯨井地区は、古代入間郡の中心として郡家が置かれたと推察されています。この地区を北流する入間川は、奈良時代には水運に利用され、郡内の租税（稲）が運ばれたり、遠隔地の物資も水運を通じて郡内にもたらされたようです。

現在このあたりでは、初雁橋や川越橋、堤防上の道路などから入間川の上流方向に富士山を望むことができます。また、サイクリングロードや霞ヶ関東運動公園、上戸緑地運動公園も整備されています。

【53】小ヶ谷のさくら堤と田面澤

入間川の堤防上に築かれた西浦公園は、桜堤として花見のスポットとなっています。この周辺には、かつての東上鉄道（現東武東上線）の旧入間川橋梁の橋台や川越の歴史をモチーフとしたデザインの川越橋、富士山がきれいに望める初雁橋などの見どころもあります。川と田が織りなす風景は遠い昔の伊勢物語に登場する田面澤を彷彿とさせます。

みよし野の　たのむの雁もひたぶるに　君が方にぞよると鳴くなる

三芳野のたんぼに降りている雁も鳴子の引板をひくと片方へ鳴きながら逃げて寄っていきますが、そのように私の娘もあなたの方に心をよせている。

東上鉄道旧入間川橋梁跡

現在の橋梁は昭和 39 年（1964）に架け替えられたもので、その脇に旧橋梁の遺構があります。

旧橋梁の橋台や橋脚の基礎部分は深谷で焼かれた煉瓦が使われています。

大袋白髭神社（おおぶくろしらひげじんじゃ）

大袋村は秀吉の時代天正のころ（1573～89）にはすでに拓けていました。白髭神社については『風土記稿』には「永禄年中（1558 ～89）勧請の由」と記されています。慶応 4 年（1869）築とされる本殿・拝殿の彫刻は大変見事です。

この境内では、江戸時代から奉納相撲が行われていました。大正 11 年（1922）には名横綱双葉山一行、戦後の昭和 27 年（1952）の勧進相撲興行には横綱千代の山（初代九重親方）、大関栃錦らが来訪。戦後間もなくのことで旅館などもなく、大袋をはじめ、周辺の村の農家などに分泊して、うどんでもてなしたという話が伝わります。現在境内には、拝殿の前面に土俵跡の盛土や、力石が残されています。

夜泣き地蔵と馬頭観音

その昔、旅人で賑わったという辻に、お地蔵さんや馬頭観音があります。お地蔵さんは、子どもの夜泣きにご利益があるという言い伝えがあり、「夜泣き地蔵さん」と近在の人々から敬われていたそうです。

池辺熊野神社と梶原の池

古くから村社熊野社として、天王様・疫病除けの神として信仰を集めてきました。明治 40 年に日枝神社、厳島神社と合わせて熊野神社となってからは「おくまんさま」と呼ばれ、元朝祭やフセギ、夏・秋祭などが行われています。

梶原の池には、源頼朝とその家臣梶原平蔵景時との逸話があり、そこから池の名がつけられました。池には弁天さまが祀られていて、弁天池とも呼ばれます。

安比奈線

西武鉄道南大塚駅と安比奈駅とを結ぶ安比奈線は、大正 14 年（1925）に開通。入間川で採取した砂利を運搬したため「砂利線」と呼ばれました。当初は蒸気機関車でしたが、後に電化されました。後年、砂利採取方法が近代化され、採取量が増大、そのため河床が下がり、農業用水の確保に支障を来すこととなります。昭和 42 年（1967）には砂利採取が禁止されました。以降は休止線となり、テレビドラマの撮影が行われたり、鉄道ファンからも注目されていましたが、平成 28 年（2016）２月、西武鉄道から廃止が発表されました。

【80】西福寺と餅つき踊り

餅つき踊りはもとは七五三に催されていましたが、現在は成人式に合わせて行われます。6～7人が西福寺の境内で独特の歌に合わせて曲芸をしながらの餅つきや、臼に綱を付けて菅原神社へ曳く「曳きずり餅」などがあり、毎年大勢の見物客で賑わいます。

西福寺は、天台宗木宮山地蔵院と号します。「風土記稿」に「客殿の縁に寛永３年（1627）当山第十五世詮海と鋳りたる半鐘を掛けたれば」との記述があり、江戸初期の頃の創建と考えられています。

菅原神社は南北朝時代の創建とされ、背後の盛土は南大塚古墳群の墳丘といわれています。

【79】山王塚

木々が生い茂る小山のように見えるのは上円下方墳で、7 世紀に築かれ、国内最大級といわれます。頂部には山王社（享和元年）とともに榛名社（文化元年）、庚申塔（寛文 12 年）稲荷大明神（寛政 11 年）等があります。周辺には 18 基の古墳が確認され、南大塚古墳群を形成しています。

【82】豊田本の集落―薬師堂と善長寺

豊田本集落は、入間川の自然堤防上に早くから開けたところで、田は条里制の遺構ともいわれます。

この集落の田園風景の中に、善長寺の境外堂である薬師堂があります。豊田山善長寺は曹洞宗寺院で、創建は大永七年（1527／室町後期）とされていますが、そこには在地武士豊田隼人が関わっていたようです。豊田本の地名も、この武士の名からつけられました。

善長寺は古代蓮の名所としても知られ、境内にある放生池では 6 月中旬から下旬の朝 6 時から 8 時ごろ、満開の蓮が楽しめます。

善長寺の南東にある豊田本白髭神社は、長禄元年（1457／室町時代）本村の新井帯刀の創建といわれます。境内には富士山の形をした浅間様（富士塚）があり、8 月 27 日に祭が行われていました。